

子どもの成長に深い影響を及ぼします。子どもにとって家庭は、「やすらぎの場」であるとともに、「子育ての場」でもありません。特に「子育ての場」ということで、子どもが基本的な生活習慣、他人に対する思いやり、善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につけるうえで、家庭教育はとても重要だと思っています。

家庭教育学級などを一層充実させ、家庭教育力を向上させたいと思っています。例えば、現在行っている読書教育の推進やノーテレビデイの実施であります。

次に、地域教育についてお話しします。今、学校においては、21世紀をたくましく生き抜くために、教育内容の改善・充実を図っています。しかし、学校だけでは、その力を付けることに限界があります。地域みんなで健全な子ども達の育成に努めることが大事です。大人と子ども達の間で、様々な交わりが自然に行われる地域をつくりあげることが必要であると思います。町や地域の行事への参加の推進、チャレンジクラブ802や子ども体験講座の内容の充実などをすすめていきたいと思っています。

中高連携についてお話ししたいと思います。中高連携でどんなことを行っているかというところ

教員同士の交流と生徒同士の交流であります。

具体的には、国語、数学、理科、英語の4教科で、中学校の教員と高校の教員が互いに交流授業を進めております。また、中高合同の教科部会を行っております。中学校2年生が八百津高校を理解するため、高校見学会を行っております。中高合同の教員の研修会も行っております。生徒同士の交流では、環境美化活動を花火大会翌日に実施しています。これからも、中高連携を大事にしていきたいと思っています。

卒業生が多く八百津町に残り、若い力で、八百津町の活性化に向けて、リーダーシップを発揮してくることを願っています。当然、このことは、少子化対策にもつながると考えます。

八百津高校は、今年70周年を迎えました。9千人の卒業生は、八百津町を始め、様々な分野で活躍されており、地域の発展に大きく貢献されています。そういう意味で、八百津高校は地域と共に歩み、八百津町の発展に大きく貢献してきた学校です。

現在の八百津高校は、個々の学力の向上を目指すために、手厚い少人数授業などの指導を行っておりますし、社会の中で生きていく力をつけるために、キャリア教育にも力を入れております。大変面倒見の良い高校である

との評判もあります。

しかし、連携について難しい面もたくさんあります。そもそも子ども達にとって高校入学は、義務教育とは違って、高校を自由に選択できるということですから、そのために県内高校は、全ての中学校3年生や保護者に対し、魅力ある学校づくりをしています。

八百津町は、すぐ近くに、商業高校、農業高校、実業高校として普通科高校があります。どこにでもいける環境にあります。連携型中高一貫校であるといいますが、選択できますので、すべての子どもが八百津高校に入学するというものではありません。実際に今の高校1年生は、八百津中、東部中から入学している生徒は、全体の20%でございます。

八百津高校は魅力が一杯です。今後、中高連携を大事にしていきたいと思っています。

小規模校の統合問題についてお答えします。12月1日現在で、現在の児童生徒数は、八百津小学校161名、和知小学校192名、錦津小学校132名、久田見小学校54名、潮見小学校12名、八百津中学校289名、八百津東部中学校42名、合計882名です。どの小中学校も今後減少を続けると考えられ、徳田議員のご指摘のとおりです。

私が、小規模校の子ども達と

接して、「小規模校の子ども達の姿として当然のことと思われる」姿の中に、今、都市部の子ども達から徐々に失われようとしている姿を感じています。それは、大きく4つのことです。

- 一、自然や人に対する豊かな感性、感受性があります。
- 二、地域の一員としての自覚や誇りがあります。
- 三、勤労をいとわない態度があります。
- 四、思いやりの心や奉仕の心などが素直に発揮できる豊かな人間性を感じます。

これらの力は、別の言い方をすれば、「21世紀の子ども達にとって、なくてはならない力や態度」として求められ、身につけたいと願っている「生きる力」の基礎基本の力ではないかと思っています。

これらの力がついているのは、小規模校の環境や、特性を活用した教育のおかげです。子どもの数が少なくても、小規模校の良さを生かし、指導を意識的に行えば、社会性などは身につくと考えます。現段階では、まだ、統合のことは考えていません。

問 文科省から2012年度の問題行動調査の数値が公表されており、全国で198、108件が報告されている。1985年の調査開始以来最高であり、前年度の2.8倍に急増して

いる。県内でも、3,653件、前年度24%増となり、5年ぶりに前年度を上回っている。いじめの増加を真摯に受け止め、歯止めをかけていくということですが、いじめの発見は大変難しいことである。今は、インターネットによる誹謗中傷などのいじめが、学校でも増えていることも公表されている。大人が気づくトラブルは、氷山の一角であり、若者に人気の無料通信アプリ「LINE」をめぐる、いじめやトラブルが、先生・親の目のとどかないところで、深刻化している可能性があると専門家は指摘している。便利なスマートフォンも使い方を誤るといじめに発展する可能性もあるため、今後とも注意深く指導していただきたい。

また、中高連携については、平成16年度から進められている。この中でも、学力の向上、豊かな心の育成の両面のバランスが重視されている。

特に八百津高校においては、チャレンジテストの実施や中学生と高校生の交流、地域との取組もしている。中学校の教員から見た中高一貫教育のメリットは、学習指導の改善、生徒の学力の定着、地域の活性化、簡便な選抜方法による生徒の進路実現である。八百津高校を志願者したほぼ100%の方が合格している。昨年までは、特色化選抜に